

通信小海

なぜ戦争は止まないか？

牧師 水草修治



「もろびとこそぞりて むかえまつれ」と幼稚園の冬枯れの庭をスキップしながら歌った覚えがある。もう四十年以上も前のことである。意味はさっぱりわからなかったが、近づいてくるクリスマスがただ楽しみで歌っていたのだった。

クリスマス会に出ると、プレゼントをもらった。年子の兄が黒いビニールのボクシング・グローブで、私のは赤いのだった。およそ平和の君の誕生日クリスマスらしくないプレゼントである。当時のビニールは寒さですぐバリバリになって、ボクシングごっこをすると、顔がすりむけて痛かった。

今月の御言葉

「その名は、不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君とよばれる。」
イザヤ書九章七節

イザヤ書九章七節

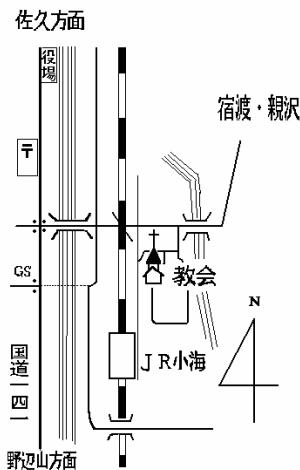
日本同盟基督教団小海キリスト教会 牧師 水草修治

会堂・牧師館 南佐久郡小海町大字小海四三三五 二七

〒三八四一一 二二 二六七九二四七七六

カンパ宛先〒振替005300 61683

見晴台の教会へどうぞ



集会あんない

日曜日 サンデースクール 午前八時四五分

朝礼拝 午前十時から十一時半

夕礼拝 午後八時から九時

水曜日 祈り会 午前十時半と午後七時半

*海尻・川上で毎月家庭集会あり。

*個人的な聖書勉強や個人的なご相談にも乗ります。

しかし、最近「戦争は素手で殴り合いをする事ではない。」ということばをある本で見つけて、ボクシングというのは案外、平和的なものかもしれないと思う。戦争をするにはライフルや機関銃や大砲や戦車やミサイルや軍艦がいる。もし、そうした武器が手に入らなければ戦争にはならない。世界の多くの人々が平和を願っているのに、現実には戦争が終わらないのは、紛争地域をターゲットに武器を売りまくる「死の商人」たちがいるからである。

国連は世界平和のために作られたと言う。

ところが、その常任理事国こそ死の商人の国々である。世界の武器輸出の第一位は米国、二位英国、三位フランス、四位ロシア、五位中国、そして常任理事国ではないがドイツが第六位であり、これら六カ国で世界の武器輸出の九十パーセントを占めているのである。彼らが本気で世界に平和をもたらした

いのなら武器輸出を禁止すればよい。素手で戦争はできないのだから。マスコミは戦争の原因を民族対立・宗教対立云々と説明するけれども、民族や宗教が対立していても、武器がなければ戦争にはならない。マスコミ先生たちはどこからか圧力がかかっているのか、戦争がおこる仕組みの真相を語ることはしない。

たとえば、米国の死の商人はフセイン政権の反対勢力クルド人たちに大量に武器を売って紛争をたきつけた。次に米国はフセインのクルド人弾圧を非難し、「民主主義のために」と戦争に乗り出し、一発二十億円もするミサイルを撃ちまくった。もうかったのは死の商人、そして米国は平和維持軍を送り込み、石油権益を確保した。

民主主義をかかげる米国大統領はイラク国民の幸福に無関心である。もし関心があれば、どうして彼らの健康と国土を放射能によって永久的に破壊する劣化ウラン弾を大量に使用しただろう。米国政府高官リストを見ると、元軍需・石油会社取締役のチームである。大統領の本音は軍需・石油の儲けのためであろう。今般の戦争で

太ったのは軍需・石油産業であり、悲惨なのはイラク国民と米軍兵士と家族である。

わが国は「武器輸出三原則」で紛争地域への武器輸出を禁じているので、あの死の商人のリスト上位に名前が挙がっていない。技術と資本を持つ日本が、武器で商売をしないで来たことこそ世界平和のために実効ある最大の国際貢献だった。他国内の火種に油を注いで、大火事になったら、後始末だと旗を掲げて平和維持軍を送り込むマッチポンプ式の国際貢献と大違いである。

ところが、今、日本は憲法九条改変とともに武器輸出三原則を捨て去ろうとしている。九条改変の目的は、集団的自衛権つまり「日本軍が米軍と組んで、いつでもどこでも戦争できる権利」を確保することなので、武器輸出禁止などとは言っていられないからである。そうすれば、日本も死の商人の仲間入りである。あなたは、わが国をそういう「普通の国」にしたいだろうか。

ふり返れば「平和の君なる御子を迎え」と歌ったあの日から、世界から戦火がやんだ日は一日もない。天にいる主イエスはどれほど悲しんでいらっしやるだろうか。

古毛布をお願いします

信州から野宿者支援



*未使用切手・未使用割り箸募集中

山谷農場事務局（藤田 寛）

小海町芦谷ヒルサイドコーポ一 二号室

毎週金曜・土曜はあります。

電話 090・1436・6334

〒374-042・7866・2088

メール nyoro@eiige.on.ne.jp

カンパ振替 一四 四五三七九六

年の瀬に己が日を数える



今年四月号で東海大地震について書いた。過去のデータによればM8強の大地震は百年から百五十年周期で発生しており、今年は何回かの安政大地震から百五十一年目。日本地震学会は二五年には東海地方の地殻変動は限界に達し、東海地震は三年以内に起きると言っている。しかも、静岡県御前崎市には日本最大規模の浜岡原子力発電所が稼働中である。六八四年から一九四六年までに起きた東海南海地震十二回のうち五回はなぜか十二月に集中している。

こつという情報を持っていながら、十一月末の数日、私は名古屋に仕事で出かけなければならなかった。そのとき思ったのは、地震予知情報のたぐいは、たとえ知っていても、その予知にしがたって行動すること

は難しい。「地震が起こりそうですから、名古屋へは出張いたしません。」とはまず言えない。

できる備えといえば、せいぜい水や食料を準備するとか、家具が倒れてこないようにつつぱりをするとか、寝室に運動靴を用意するということくらいである。自治体としては、この山間地のばあい、大地震が来ると道路やライフラインが寸断されて孤立する恐れがあるから、それなりの備えが必要であろうし、真冬ならばなおさらである。さらに万一、浜岡原発が破綻すれば、その被害規模ははかりしれない。

つまるところ、我々はいつこの世を去ってもよいように備えをしておくべきなのだということにならざるをえない。逆にいえば、死への備えがちゃんとできていれば、地震だろうと台風だろうとガンだろうと飛行機事故だろうと、冷静に備えられる。しかし、死への備えができていないならば、どんなに「万全の対策」を取ったとしても、けっして安心ではありえない。

知り合いのクリスチャンに、正月になると毎年遺書を書き直すという人がいるが、たい

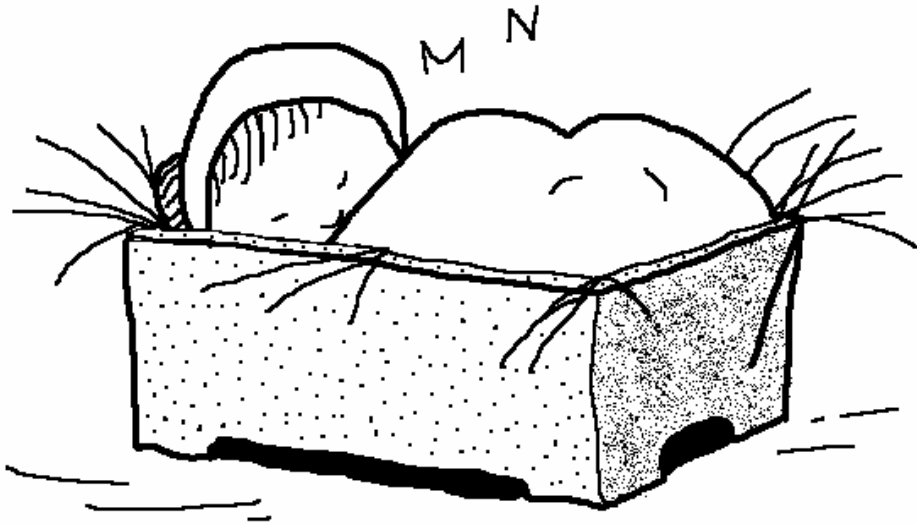
てい人は、「他人は死んでも自分は死ぬまい」と思っている。思って何の備えもせぬままに、その日を迎えてしまいがちである。しかし、死ほど確かなものは少ない。死後、我々は一人一人審き主の前で申し開きをしなければならぬ。

神はこの地上を生きるために、我々に多くのものを託してくださった。家族、健康、友、食物、空気、金銭、能力、いのち……。それらをこの地上で、神を愛し隣人を愛するために正しく活用したか、それとも神に背を向けて感謝もせず、自分本位の用い方をしたまっただろうか？ その思いとことばと行動においてなしたことが、神の前で明らかにされてしまう。そうして公正厳格無比な審きが言い渡される。

年の瀬が迫っている。おたがい、自分にも終わりの日があり、主の前に引き出される日があることを覚えて、己が日を数える知恵を持ちたいものである。

「それゆえ、私たちに自分の日を正しく数えることを教えてください。そうして私たちに知恵の心を得させてください。」

メリークリスマス



クリスマスこども会

日時 12月23日(休) 1:00 - 2:30PM

内容 ゲーム、歌、人形げき『誰が鐘を鳴らしたか?』

無料

クリスマスイブ礼拝

日時 12月24日(土)

2:00 - 3:00PM・・・雪でも安心、お昼です!

無料 どなたでもご参加いただけます。